

# ぐるめ散歩

ラーメン

## 狸小路ラーメン

独特のスープの味噌ラーメンと手作り餃子で50年以上営業を続け、多くのファンを獲得しているラーメン専門店。

ラーメンは味噌、辛味味噌、醤油、塩、野菜、バター、ワカメ、メンマ、チャーシューなど12種類ある。スープは豚足や鶏ガラ、タマネギなどの野菜を長時間煮込んで作っており、人気の味噌ラーメンは4種



木原さん

の味噌などを使った深い味わいが特徴だ。

☎3489-7814 岩戸南1-3-6 営業=午後5時~11時30分(金・土曜は12時、日曜は10時30分) 火・水曜休み

## 独自の研究重ねた味噌ラーメン 皮から手作りするジャンボ餃子



餃子は、大きさが通常の倍以上あるジャンボサイズで、モチモチした食感の厚い皮にひき肉や野菜の大きなアンが入っている。強火で作る具だくさんのチャーハンも人気だ。



同店は、店主の木原成年さんの叔父が50年以上前に札幌ラーメンのチェーン店として開業したのが始まり。

新しい橋  
いちよう通り  
狸小路  
岩戸南  
岩戸南  
岩戸南

叔父が短期間で辞めた後、母の勧めで木原さんが引き継いだ。その後は、食べ歩きや、顧客のフランス料理のシェフからヒントをもらうなど独学で研究を重ねてきたが、木原さんは「求める味にはまだまだ」と話す。餃子は試行錯誤の末、約40年前に現在の形と味、焼き方にたどり着いたという。閉店後に作る餃子の皮をはじめ、メンマや焼き豚、味付け玉子、ラー油なども全て手作りしている。

カウンター12席の小さい店だが、長年の常連や祖父の代から通う人などでにぎわっている。

### おすすめMENU

- ①チャーハン¥750 ②狸小路ラーメン¥1,100 / 味噌ラーメン¥900 / 辛味味噌ラーメン¥950 / 醤油ラーメン¥850 / 塩ラーメン¥850 / チャーシューメン ¥1,200 ③焼餃子(4個) ¥500 / 水餃子(4個) ¥600 / 味付け玉子¥100 (税込)



## 2万個使いドミノチャレンジ 第四育成委員会が五小で開催

約2万個のドミノを使った「ドミノ・チャレンジ!」が粕江第五小学校体育館で2月8日田に行われた。

この催しは、「地域の仲間や親子で楽しいひとときを」と粕江市青少年第四育成委員会が主催、粕江第四中学校の学区に住む小・中学生とその保護者合わせて72人が参加した。

参加者は10グループに分かれ、決められたエリアに色とりどりのドミノを使って花や果物、動物、建物などを約1時間かかりで描いた。ドミノに少し触れただ

けで倒れるため、子どもたちは緊張した様子で作業を行ったが、アクシデントがしばしば発生。それでもめげることなく作り直していた。各グループの作業が終わった後、第四育成委員会の委員らがドミノを使って各作品を連結。子どもたちは体育館の舞台上に座って、体育館いっぱい描かれた自分たちの作品を満足そうに眺めていた。

続いて、参加した子の中で最年長で中学生の松岡咲希さんが、スタートのドミノを倒すと、各グループの作品が順に倒れ、子どもたちから歓声が上がっていた。途中で倒れなくなった時は育成委員が再スタートし、約4分で全作品が倒れると、参加者たちは満足そうな表情を浮かべていた。

### 森繁久彌が住んでいた頃 映画と話で当時のぶ

粕江郷土資料館(仮称)設立をめざす会(石谷清隆代表)が2月11日(土)にエコルマホール6階展示多目的室で、かつて粕江に住んだことがある俳優の森繁久彌さんと原節子さん共演の映画「ふんどし医者」(稲垣浩監督、115分、昭和35年)の上映と、森繁さんの次男建さんの話を聴く会を催した。

粕江は昭和10年代から40年代にかけて世田谷区成城に東宝撮影所、調布市に日活多摩川撮影所などがあり、その関係で、映画監督



昔の粕江の様子を語る森繁建さん(左)と小野さん

の黒澤明さんや渡辺邦男さんをはじめ俳優など映画関係者が多く住んでいた。

同会は、近現代史として粕江にゆかりのある著名な人物を市民に知ってもらおうと企画したもので、約120人が参加した。

映画上映に続いて、建さんが

21年に一家が満州から引き上げて住んでいた泉龍寺付近の様子について語り、弁財天池の光景が「自分の記憶の原点になった」などと振り返った。

建さんの同級生で、久彌さんが健在だった頃から一家と家族ぐるみで付き合いがあった粕江生まれの俳優小野武彦さんもゲストで参加。二人は70年来の友と粕江の昔話に花を咲かせていた。

### 7日まで春の火災予防運動 備えようマイ消火器

1日田から7日田まで春の火災予防運動が行われる。

粕江消防署では2日(土)午前10時~午後3時に同署で消防ふれあい広場を開催する。ミニ消防車運転、初期消火訓練、映像コーナー視聴、消防車展示などを行う。

また、4日(火)午前11時から粕江市役所で松原俊雄市長が一日消防署長を務め、市役所職員らによる自衛消防訓練と連携して粕江消防署員、粕江消防団員による消防演習を実施する。

同署によると、市内では令和6年に前年より2件多い14件の火災が発生、焼損床面積は98㎡と、前年より88㎡増えた。

出火原因はたばこ3件、ガス機器2件、電気機器等2件など。

同署では、令和5年中の建物火災では消火器を使うと7割以上で被害が減っていることから、家庭にマイ消火器を備えることで素早く火を消す体制を整えるよう勧められている。消火器は様々な火災に対応でき、持ち運びが容易で早い初期消火につながり、取り扱いが簡単で高い消火能力を発揮できるなどのメリットがあるという。

問い合わせ ☎3480-0119 粕江消防署。



## 小池邦夫特別展が盛況—業績伝える作品展示と講演会

## ひらがな 絵手紙の輪



会場いっぱいに展示された作品

小池邦夫特別展が2月8日田から10日田にエコルマホール6階展示多目的室で催された。

絵手紙発祥の地—粕江として、令和5年8月に死去した絵手紙作家で粕江市名誉市民小池さんの遺志を受け継ぎ、絵手紙文化を100年残していこうと、粕江市が小池邦夫絵手紙美術館(山梨県南都留郡忍野村)の協力で開催したもの。

会場には、小池邦夫絵手紙美術館や妻の小池恭子さん所蔵の20代後半から晩年までの大小様々な作品約50点が展示されたほか、緑野小学校の絵手紙クラブや絵手紙ポストなどの活動と作品が紹介された。会場には延べ約900人の絵手紙愛好家などが訪れ、並べられた多彩な作品に熱心に見

入り、小池さんの業績と絵手紙の魅力を確認していた。

10日には『広報こまえ』に令和5年4月号から令和6年3月15日号にかけて24回にわたって「小池邦夫のうちあけ話」を連載した元新聞記者の佐藤清孝さんのミニ講演会が催され、222人が参加した。

連載は加筆・修正のうえ、A5判62ページの同名の小冊子として6年8月に発刊され、大きな反響を呼んだ。

講演では佐藤さんが「小池邦夫のうちあけ話のウラ話」と題して、連載に至った経緯をはじめ小池さんの絵手紙にかけた思いや足跡、絵手紙文化を伝えていく意義などを約1時間にわたって紹介、参加者たちは熱心に耳を傾けていた。



講演する佐藤さん